


## 地域活性化伝道師プロフィール

分野	地域産業・イノベーション・農商工連携	○	農・林・水産業	○	
	地域医療、福祉・介護、教育	○	観光・交流	○	
	地域コミュニティ・集落再生	◎	環境		
	地域交通・情報通信		まちづくり	◎	
ふりがな		いはら みつあき			
氏名		井原 満明			
所属	名称	地域計画研究所			
	役職	代表			
連絡	住所 (職場)	〒251-0004 神奈川県藤沢市藤が岡2丁目5-19-301			
	連絡先	e-mail	rupc-mi[アットマーク]jcom.zaq.ne.jp		
		TEL 080-1160-2423	FAX 0466-29-6581		
	連絡方法	E-Mailでお願いします			
略歴		<p>1948年 福島県福島市に生まれる。</p> <p>1972年 法政大学工学部建築学科卒業</p> <p>以降、建築設計事務所、法政大学非常勤助手、都市計画事務所を経て</p> <p>1985年 (株)地域計画研究所を共同で設立。</p> <p>2010年 長野県木島平村教育委員会農村文明塾事務局次長の辞令(招聘)を受け農村再に取り組む。2012年4月から事務局長、2014年10月から総合コーディネーター(～2015、木島平村公民館長兼務)</p> <p>[大学非常勤講師]東京学芸大学;環境教育'99～'00/東洋大学;環境社会学'04～'06</p> <p>2020年 藤沢市で地域計画研究所を主宰し、まちづくりのネットワークを目指す。</p> <p>[主な委員経歴]都市農業検討会委員、都市農村交流・地域間交流百選検討委員、地域振興アドバイザー/農山村第3セクターアドバイザー</p> <p>中心市街地活性化タウンマネージャー/廃校活用検討委員会座長、他</p> <p>[社会活動]農村計画学会評議員、東京都農業会議アグリタウン研究会</p> <p>特定非営利活動法人:中山間地域フォーラム理事・運営委員、他</p>			
著作・論文等		<p>[共著]日本型クラインガルテン実現へのビジョン/農はいつでもワンダーランド/NPO基礎講座3/地域再生の村づくり・まちづくり(循環型社会の地域計画論)/地域の再生と多元的経済(英国のサードセクターと社会的企業に学ぶ)/「元快集楽」飯豊社協/中山間地域ハンドブック/都市の農を考える/戦後英国の都市計画理論(翻訳:計画技術論から総合的まちづくり論へ)</p>			

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。

	〔論文〕農山村型第3セクターの新たな役割／田園都市レッチワースの地域経営／エコミュージアムとグリーンツーリズムの融合展開／地域資源を生かした地域づくり（地域が元
取組概要	<p>①農村集落の再生: ライフスタイルの価値観を変えるグリーンツーリズムと地域の資源を地域で生かすエコミュージアムの融合展開(岩手県内、他県)、それらの取り組みと合わせて農家民宿の支援(山形県)や災害復興に活かす(宮城県)</p> <p>②高齢社会の地域づくり: 高齢者の特技・手仕事を活かしたマイスター制度の設立(宮崎県)、高齢者が中心となってワークショップを開催し、生きがいづくりと集落の再生に取り組む。(山形県)</p> <p>③ローカル線と地域再生: 三セク鉄道と沿線集落の再生を目指し各駅を拠点とした駅市や駅カフェの開催、駅間と集落を結ぶフットパスづくり(秋田県)</p> <p>④中心市街地活性化: 中心商店街と周辺地域の農村部との連携を図り住民参加協働型第3セクター「まちづくり会社」を提案しその設立に関わる(岩手県)</p> <p>⑤農村文明塾: 農村における新たな価値の創造の取組みとして農村文明塾の運営に参加し域学連携などを実施、雪を生かした雪中酒の商品開発を行う。全国村長サミットの開催(長野県・熊本県・福島県)</p> <p>⑥福祉版コンパクトシティ: 高齢者の暮らしと生業の創造について講演し、その後、高齢者たちが耕作放棄地を活用しさつま芋を栽培し「焼酎」を試作しブランド化を図る(新潟県)</p> <p>⑦集落を支える中間支援組織(地域運営組織)と行政を巻き込んだ民間・地域によるパートナーシップ組織で地域の再生を検討(岩手県、他)</p>
メッセージ	<p>地域の活性化を考える上で、地域住民自身が問題意識を持ち、そのための解決方法まで考えることが重要である(課題解決の共有)。そのためのワークショップは、①問題の把握(解決すべき課題整理)、②整理された課題を解決する方向性(方針づくり)、③その方向性に向けた行動計画(アクションプランづくり)の3段階のワークショップを提案し、地域づくりへの第1歩を踏み出すことが重要。特に少子高齢化が進む農村集落では、自分たちの子どもや孫を取り戻し、若者達のU・Iターンなど、いずれ若者が戻る(戻す)という立場に立った地域づくりが大切である。そのためには、あきらめではなく希望の持てる地域づくりと一緒に考えたい。そして、それらを推進するための組織として、NPO法人を中心とした地域における「社会的企業(非営利民間組織)」を設立し、地域に根ざした「地域運営・地域経営」の重要性を感じている。</p>
関連ホームページ	<a href="http://blog.livedoor.jp/mitsuaki_ihara/">http://blog.livedoor.jp/mitsuaki_ihara/</a>
活動エリア	-

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。